

天気図が出来るまで

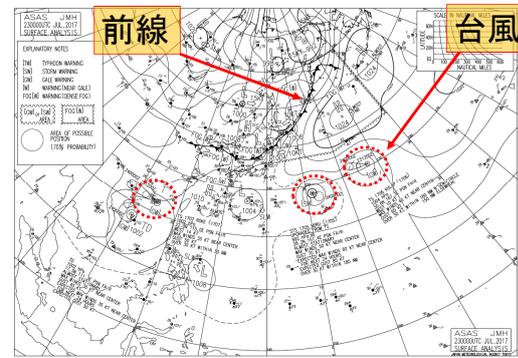


図1 アジア太平洋地上天気図

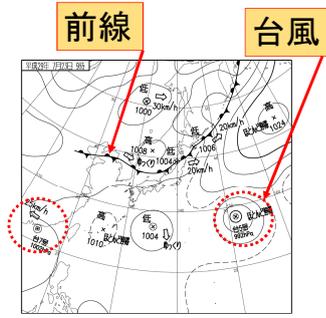
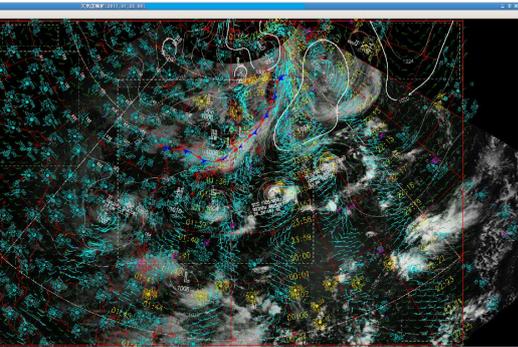


図2 速報天気図



←図3 観測データの重ね合わせ



図4 数値予想の等圧線（赤線）と解析で修正した等圧線（白線）

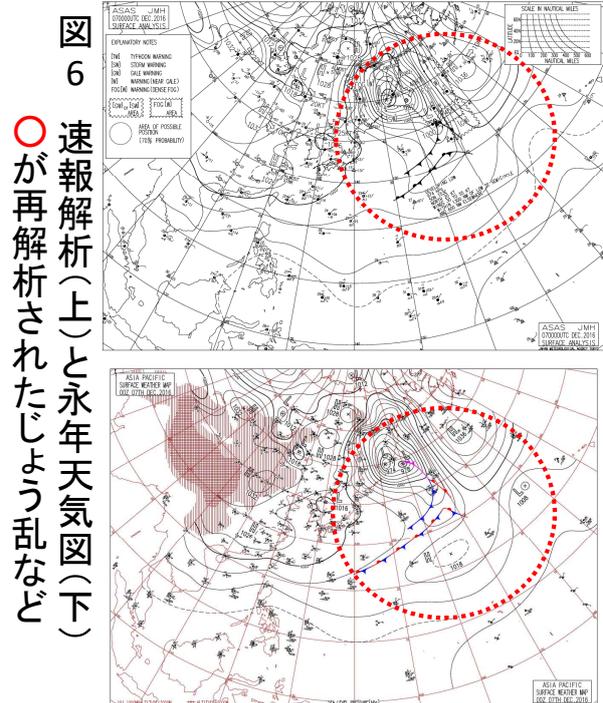


図6 速報解析（上）と永年天気図（下）
○が再解析されたじょう乱など

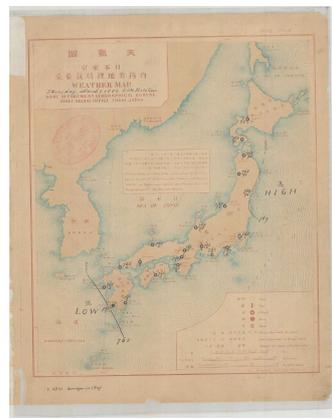


図7 初の天気図

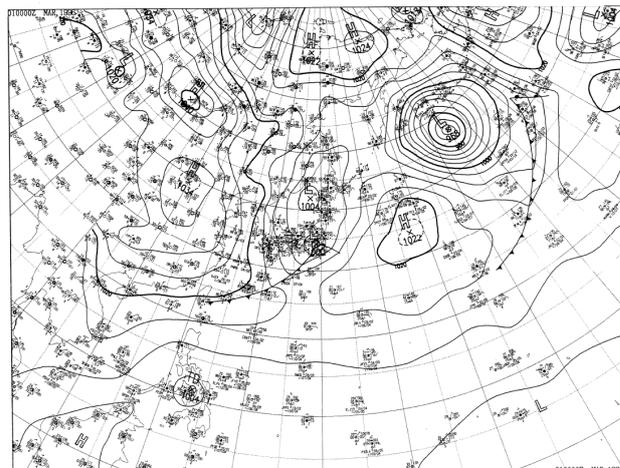


図8 最後の手書き天気図（右）と最初のシステムによる天気図（左）ほとんど差はありません



図5 天気図作成の流れ

- ①国内はもとより、世界中から観測データが集められます。
- ②観測や数値予報などの各種データを重ね合わせ、低気圧や高気圧、前線等を解析、等圧線を修正します。
- ③速報版の天気図として「速報天気図」や、海上警報に利用される「アジア太平洋地上天気図」を発信します。
- ④速報解析の後に、再度観測データ等を見直して「再解析」を行い、永年天気図として一般への提供などや、国立公文書館への収蔵をします。

